

教科	国語	科目	論理国語	担当	
履修学年	2年	単位数	2	履修区分	普通科
教科書	精選論理国語（東京書籍）				
副教材等	状況に応じて適宜使用する				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 学習評価

評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
a 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
b 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
c 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 全体計画

期	月	内容の まとめり	単元 (題材)	項目 (学習内容)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
					a	b	c		
前 期	4	論理の力	論理とは何か	書かれている内容を理解し、「論理的」とはどのようなことを学ぶ	○	○	○	a 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 b 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 c 進んで演繹的な推論について理解し、学習課題に沿って広い意味での「論理」における言葉の関連性や文章構造について捉えようとしている。	・小テスト ・音読 ・課題取組状況 ・定期考査 ・ノート
	言語と認識	相手依存の自己規定	同上	○	○	○	同上		
前期中間考査									
6	人間を見つめる	メディアの変容	同上	○	○	○	同上	・小テスト ・音読 ・課題取組状況 ・定期考査 ・ノート	
	言語と認識	科学的「発見」とは	同上	○	○	○	同上		
前期末考査									
後 期	9	論理の力	【附録】評論読解へのアプローチ（テーマ編）1「通念」と「独自の見解」を対比的に捉える	「対比」関係について学び、文章を論理的に理解する力を養う。	○	○	○	a 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 b 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握している。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 c 進んで論理的な文章の構造を理解し、学習課題に沿って、中心的主張を捉えた要約の方法を理解しようとしている。	・小テスト ・音読 ・課題取組状況 ・定期考査 ・ノート
	11	人間を見つめる	科学的「発見」とは	同上	○	○	○	同上	
後期中間考査									
5	11	論理の力	要約する力	「幹」「枝葉」「根」という文章の構造を理解し、適切に要約する力を養う。	○	○	○	a 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。 b 「書くこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握し、要約文としてまとめている。 c 進んで論理的な文章の構造を理解し、学習課題に沿って、中心的主張を捉えた要約の方法を理解しようとしている。	・小テスト ・音読 ・課題取組状況 ・定期考査 ・ノート
	人間を見つめる	メディアの変容	同上	○	○	○	同上		
後期末考査									

4 評点の観点別配点(考査以外も含む合計)

	前期中間	前期末	後期中間	後期末
a	40	40	40	40
b	40	40	40	40
c	20	20	20	20
計	100	100	100	100

5 授業や課題等に取り組む上での留意点

- ①本文を熟読し、安易に他者を頼らず、自力で自らの能力を伸ばすよう取り組むこと。
- ②課題、演習問題に丁寧にじっくりと取り組むこと。
- ③論理性を理解するように努めること。
- ④提出物の期限を厳守すること。